

高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の主要事業取り組み状況について 【平成27年度】

平成27～29年度を計画期間とした「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は、「高齢者が尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らすことができる社会の実現を目指します」を基本目標とし、基本目標に向けた取り組みとして、「高齢者の社会参加・生きがいの促進」「介護予防に積極的に取り組める環境の整備」「地域における支え合いの体制づくり」「地域で認知症の方とその家族を支える体制の整備」「多職種連携による在宅での療養・介護提供体制の構築」「日常生活圏域を中心とした介護サービス基盤の整備」「将来にわたる介護人材の確保」「多様な生活ニーズに対応した快適で安心できる暮らしの確保」の8つの施策の柱により、高齢者保健福祉施策を推進している。

施策の柱ごとの各年度における主な事業の取り組み状況については、次のとおりとなっている。

(○継続施策 ●見直しまたは拡充施策 ☆新規施策)

1. 高齢者の社会参加・生きがいの促進

(1) 社会参加活動の推進

○(ア) 老人クラブへの助成

会員相互の親睦を図るほか、教養の向上、健康の増進のための活動や社会奉仕活動等により、地域コミュニティ活動を支える活動を実施している老人クラブに対し助成を行い、その活動を支援している。

- ・27年度見込 団体数 465団体、 会員数 21,414人
- ・26年度実績 団体数 470団体、 会員数 21,652人

○(イ) シルバー人材センターによる臨時的・短期的な仕事のあっせん

高齢者に臨時的、短期的な就業の機会を提供している(公社)仙台市シルバー人材センターに対し助成を行い、その活動を支援している。

- ・27年度実績 契約金額 1,064,864千円
- ・26年度実績 契約金額 1,041,279千円

○(ウ) 敬老乗車制度の適切な運用

高齢者の社会参加を促し、高齢者の健康づくり、生きがいを支援するため、70歳以上の高齢者に対し、市バス、宮城交通バス、地下鉄を利用できる敬老乗車証を交付している。平成28年10月からは磁気カード方式からICカード方式に移行する予定。

- ・27年度実績 交付者数 106,963人
- ・26年度実績 交付者数 106,091人

○(エ) ミニデイサービス「遊湯う倶楽部」の実施

銭湯や温泉施設等を会場に、健康チェック、介護予防運動、入浴や昼食を取り入れたミニデイサービスを実施している。

- ・27年度実績 実施箇所 5箇所
- ・26年度実績 実施箇所 5箇所

(2) 多彩な生涯学習の展開

○(ア) せんだい豊齢学園による講座の実施

高齢者向けに社会貢献に資する学習と相互交流の場を提供し、健康・生きがいを支援しながら人材の養成を図る。

- ・27年度実績 修了者数 119人
- ・26年度実績 修了者数 126人

○(イ) 全国健康福祉祭(ねんりんピック)やまぐち大会派遣

平成27年10月に、第28回全国健康福祉祭(ねんりんピック)やまぐち大会に選手団を派遣している。

- ・27年度実績 選手役員数 延べ約153人

2. 介護予防に積極的に取り組める環境の整備

(1) 一人ひとりの介護予防・健康づくりの取り組み

○(ア) 通所型介護予防事業

二次予防事業対象者に対して、施設への通所により、その生活機能の低下にあわせて、運動器の機能向上、口腔機能の向上に資する介護予防サービスを提供する。

- ・27年度実績 参加者数 延べ532人
- ・26年度実績 参加者数 延べ523人

○(イ) 地域包括支援センターによる介護予防教室

おおむね65歳以上の方に対して、地域包括支援センターが、介護予防に資する健康教室等を実施する。

- ・27年度見込 開催回数 983回、参加者数 17,506人
- ・26年度実績 開催回数 923回、参加者数 16,705人

(2) 地域での介護予防の取り組みを推進するための環境づくり

○(ア) 二次予防事業対象者把握(生活機能評価)

高齢者(要支援・要介護者は除く)を対象に、加齢による生活機能の低下を早期に把握して予防・改善につなげるため、豊齢力チェックリストによる生活機能の確認を行う。要支援・要介護状態になる可能性が高い虚弱な状態にあると認められた高齢者(二次予防事業対象者)には、より積極的に介護予防の勧奨を行う。

- ・ 27年度実績 二次予防事業対象者数 9,488人
- ・ 26年度実績 二次予防事業対象者数 12,094人

○(イ) 介護予防自主グループ育成・支援

高齢者が住み慣れた地域で介護予防に取り組めるよう、地域の住民参加により自主的に介護予防に取り組む介護予防自主グループに対して、グループの企画・運営を行うボランティア(介護予防運動サポーター)の育成やスキルアップを図る研修を行うなどにより活動を支援する。

- ・ 27年度実績 サポーター養成研修 6箇所、サポータースキルアップ研修 7箇所、介護予防自主グループ登録数 181団体
- ・ 26年度実績 サポーター養成研修 5箇所、サポータースキルアップ研修 7箇所、介護予防自主グループ登録数 171団体

3. 地域における支え合いの体制づくり

(1) 地域の関係機関による支援の充実

● 民間企業との見守り協定の締結等による地域の見守り体制の充実

高齢者の見守り活動の促進に関する取り組みの一環として、みやぎ生活協同組合(平成25年1月締結)及び河北新報販売店(平成27年1月締結)と協定を締結し、異変等に気づき必要と判断した場合に、本市に連絡しやすい環境を整えるとともに、高齢者の見守り活動に関して相互に協力している。

- ・ 27年度実績 通報件数 17件
- ・ 26年度実績 通報件数 12件

(2) 在宅生活を支える多様な支援

○(ア) 在宅高齢者世帯調査の実施

在宅高齢者の生活実態を把握するとともに、高齢者に対する消防・防災活動や災害時における安否確認活動等を行うための基礎資料を得ることを目的として、民生委員児童委員の訪問により世帯状況や身体状況の聞き取り調査を実施している。

対象：本市に居住する75歳以上の在宅の高齢者

- ・ 27年度実績 回答者数 90,319人(回答率95.4%)※全数調査
- ・ 26年度実績 回答者数 9,295人(回答率95.5%)※部分調査

○(イ) 食の自立支援事業

要介護・要支援認定者または二次予防事業対象者等で、低栄養状態で栄養改善の必要があり、かつ、ひとり暮らし等で食事の用意が困難な方に、栄養バランスのとれた食事を届け、安否確認を行うことにより、高齢者の自立を促し、在宅生活の質の向上を図ることを目的とする。

- ・27年度見込 利用者数 1,775人、 延べ配食数 313,805食
- ・26年度実績 利用者数 1,803人、 延べ配食数 326,399食

○(ウ) ひとり暮らし緊急通報システムの設置

65歳以上の在宅ひとり暮らし高齢者(日中ひとり暮らしを含む)等に対し、緊急時ボタンひとつで仙台市が委託する警備会社に通報する機器を貸与する。

※警備員方式の場合月525円の利用料を負担

- ・27年度見込 設置台数 3,341台 (うち新規設置台数 829台)
- ・26年度実績 設置台数 3,228台 (うち新規設置台数 345台)

○(エ) 緊急ショートステイベッドの確保

介護者の事故や急病などの緊急の理由によりショートステイの利用が必要となった場合に備えて専用ベッドを確保し、介護者の負担軽減を図る。

- ・27年度見込 利用日数 206日(稼働率 18.7%)
- ・26年度実績 利用日数 135日(稼働率 12.3%)

(3) 高齢者虐待の防止と権利擁護

○(ア) 高齢者虐待防止ネットワークの構築

地域包括支援センターを中心として、地域の住民・保健医療福祉関係機関等が、研修や事例によるグループ討議等を通じて、高齢者虐待防止について関心を高め、そのネットワークによって日常の見守り・声かけ・支援などが有機的に行われるような地域づくりを目指す。

- ・27年度見込 実施センター数 5か所(延べ実施センター数 43か所)
- ・26年度実績 実施センター数 5か所(延べ実施センター数 38か所)

○(イ) 成年後見制度の利用支援

判断能力が不十分な高齢者等を保護・支援するために、後見人等を選任する必要があるとき、家庭裁判所への申立てを行う親族がないなどの理由で制度利用が困難な者について、市長が後見等開始の審判の請求を行う。また、市長が後見等開始の審判の請求を行った場合に、一定の条件により成年後見人等報酬を助成する。

- ・27年度見込 市長申立て 28件、 報酬助成 15件
- ・26年度実績 市長申立て 29件、 報酬助成 12件

4. 地域で認知症の方とその家族を支える体制の整備

(1) 認知症の方とその家族への支援

● (ア) 認知症初期対応サポートチームによる支援

認知症に関する困りごとについて、医師、薬剤師、保健師等の専門職が必要に応じて訪問等による支援を行う。

- ・ 27年度実績 3区32地域包括支援センターで実施
2チーム体制 (実 155件訪問 34件相談)
- ・ 26年度実績 3区3地域包括支援センターで実施
1チーム体制 (実 16件訪問 49件相談)

☆ (イ) 認知症ケアパスの作成

認知症を発症した後の状態に応じた進行状況にあわせて医療・介護サービスの情報を標準的に示すケアパスを作成。

- ・ 27年度実績 当事者を含むワーキンググループで内容を検討
2,000部作成

☆ (ウ) 認知症カフェの設置

認知症の方やその家族が地域の専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェの設置を推進する

- ・ 平成27年度実績 開催団体情報交換会 3回実施 延べ136人参加
認知症カフェタイプ 19団体
家族交流会タイプ 8団体
ご本人中心のタイプ 4団体

○ (エ) 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）の整備

認知症の方に対し、その共同生活を営むべき住居において、入浴、排せつ、食事等の介護、その他の日常生活上の世話及び機能訓練等のサービスを行う施設を地域バランスに配慮して整備する。

- ・ 27年度実績 11施設（202床）を選定 計104施設（1,835床）
- ・ 26年度実績 5施設（90床）を選定 計93施設（1,633床）

(2) 保健、医療、福祉の専門職による支援

○ (ア) 認知症介護実践者研修、実践リーダー研修の実施

認知症介護を提供する事業所の職員等に対し、適切なサービスの提供に向けた研修を実施し、介護サービスの充実を図る。

- ・ 27年度実績 修了者数 430人
- ・ 26年度実績 修了者数 328人

☆ (イ) 認知症地域支援推進員の配置

認知症の容態の変化に応じた適切なサービスが提供されるよう、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関の連携を図るための支援や、認知症の方やその家族を支援する相談業務を行う認知症地域支援推進員を区役所や地域包括支援センター等に配置する。

- ・ 27年度実績 認知症地域支援推進員 69人配置

○ (ウ) 認知症疾患医療センターによる鑑別診断や相談

認知症疾患医療センターを設置し、認知症疾患に関する鑑別診断と初期対応、専門医療相談を実施するとともに、地域保健医療・介護関係者への研修等を実施する。

- ・ 27年度実績 地域型 1ヶ所 診療所型 1ヶ所
地域型 鑑別診断件数 111件 相談件数 428件
診療所型 鑑別診断件数 218件 相談件数 548件

- ・ 26年度実績 地域型 1ヶ所 診療所型 1ヶ所
地域型 鑑別診断件数 591件 相談件数 2,448件
診療所型 鑑別診断件数 167件 相談件数 287件

(3) 地域における認知症の正しい理解と支え合い

○ 認知症サポーターの養成

誰もが暮らしやすい地域を作っていくために、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を地域で温かく見守る認知症サポーターの養成講座を、地域や学校、職場などで実施する。

- ・ 27年度実績 ①認知症サポーター養成講座開催回数 278回
②認知症サポーター養成人数 10,689人
- ・ 26年度実績 ①認知症サポーター養成講座開催回数 213回
②認知症サポーター養成人数 7,840人

5. 多職種連携による在宅での療養・介護提供体制の構築

(1) 多職種連携による支援体制の充実

● 地域ケア会議の開催

地域ケア会議を開催し、個別課題の解決や関係機関とのネットワークづくり、地域資源の創出等の推進を図る。

(地域包括支援センター実施分)

- ・ 平成27年度 個別ケア会議 107回、包括圏域会議 152回

(2) 地域包括支援センターの機能強化

☆ (ア) 専任職員の配置によるセンターの機能強化

地域包括ケアシステムの構築に向け、平成27年度より、関係機関とのネットワークづくり等を担う専任職員をセンターに配置し、機能強化を図る。

- ・平成27年度 25センターで増員（全50センターの2分の1）

● (イ) 地域包括支援センターによる包括的支援事業

地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援するため、地域包括支援センターでの総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援、介護予防ケアマネジメントを実施する。27年度から新たに1か所のセンターを設置し、支援機能の強化を行った。

- ・27年度見込 設置数 50か所 延べ相談件数 55,518件
- ・26年度実績 設置数 49か所 延べ相談件数 54,080件

(3) 専門職によるマネジメント機能の充実

○ 地域包括支援センター職員を対象とした研修等の実施

地域包括支援センター職員を対象に、包括的支援事業等の適切な遂行に資するよう、資質の向上及び各種事業に対する理解を深めるために研修会を実施する。

- ・27年度実績 開催回数 7回 参加者数 492人
- ・26年度実績 開催回数 6回 参加者数 391人

6. 日常生活圏域を中心とした介護サービス基盤の整備

(1) 介護サービス基盤の整備

○ (ア) 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の整備

施設に入所している要介護者に対し、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話、生活全般にわたって必要なサービスを行う施設を整備する。

- ・27年度実績 5施設（479床）を選定 計62施設（4,249床）
- ・26年度実績 3施設（260床）を選定 計57施設（3,770床）

○ (イ) 介護老人保健施設の整備

施設に入所している要介護者に対し、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行う施設で、主に病状が安定期にある要介護者を対象とし、リハビリテーション等を中心としたサービスを行う施設を整備する。

- ・27年度実績 3施設（300床）を選定 計34施設（3,380床）
- ・26年度実績 2施設（200床）を選定 計31施設（3,080床）

○ (ウ) 特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム等）の整備

入居している方に対し、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話を行う有料老人ホーム等の施設の整備を行う。

- ・ 27年度実績 3施設（222床）を選定 計42施設（2,351床）
- ・ 26年度 公募選定なし

○ (エ) 小規模多機能型居宅介護の整備

「通い」を中心として、要介護者等の心身の状況や生活環境に応じて、「訪問」や「泊まり」を組み合わせながら、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話や機能訓練等のサービスを行う施設を地域バランスに配慮して整備する。

- ・ 27年度実績 4施設（登録116人）を選定 計38施設（1,003人）
※47人は登録定員の変更による増加
- ・ 26年度実績 3施設（登録75人）を選定 計34施設（840人）

〔介護保険施設整備状況（設置数・定員）〕

	27年度末 (1年目)	第6期 目標数	第6期 選定数 (27年度末時点)
	定員	定員	定員
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) [広域型] [地域密着型]	4,249人 (3,872人) (377人)	700人分	479人分
介護老人保健施設	3,380人	360人分	300人分(※)
認知症高齢者グループホーム	1,835人	360人分	202人分
小規模多機能型居宅介護	38事業所	12事業所	4事業所
特定施設入居者生活介護	2,351人	360人分	222人分

・ 数字は、計画期間内に公募選定を行った定数等であり、計画期間後に開所予定の定員数等が含まれる。

※ 介護療養型医療施設からの転換分（19人分）を含む。

(2) 多様な居住基盤の整備とサービスの質の確保

○ 有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に対する定期報告及び立入検査の実施

有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に対し、定期的に定期報告を求めるほか、立入検査を実施し、サービスの質の確保を図る。

- ・ 27年度実績 立入検査：25事業所実施
- ・ 26年度実績 立入検査：8事業所実施

7. 将来にわたる介護人材の確保

(1) サービスを担う人材の確保

○ (ア) 事業所への指導監査等を通じた職員の勤務実態・職場環境の把握と適切な指導

・助言の実施

事業所への指導・監査の際に、職員の勤務実態や職場環境についても適宜把握し、職員の処遇改善に向けて指導・助言を行うなど、事業運営の適正化とサービスの質の確保・向上、指定基準違反の防止を図る。

(介護保険施設等)

・ 27年度実績 指導：112事業所実施、監査：2事業所実施

・ 26年度実績 指導：115事業所実施、監査：4事業所実施

(居宅サービス事業者等)

・ 27年度実績 指導：161事業所実施、監査：4事業所実施

・ 26年度実績 指導：155事業所実施、監査：7事業所実施

☆ (イ) 職員の定着を図るための手法（意欲向上、メンタルヘルス等）に関する事業者との情報交換や研修会の機会の確保

介護職員の定着を図るため、事業所関係団体と共同での新任介護職員を対象にした交流会を27年10月に実施。

・ 27年度実績 1回開催

(2) 質の高いサービスを提供できる人材の確保

○ 介護支援専門員（ケアマネジャー）や地域包括支援センター職員に対する研修等の実施

介護支援専門員の資質向上を図るため、市内の指定居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型共同生活介護事業所、介護保険施設等を対象として、研修会及び集団指導等を実施する。

・ 27年度実績 研修会 7回開催 1,483人参加

(うち包括も対象 5回開催 193人参加)

集団指導 2回開催 546人参加

(うち包括も対象 2回開催 97人参加)

・ 26年度実績 研修会 7回開催 1,635人参加

(うち包括も対象 5回開催 204人参加)

集団指導 2回開催 617人参加

(うち包括も対象 2回開催 99人参加)

(3) 地域での人材の確保

☆ 市民向け介護講座（福祉用具体験講座等）の実施・参加促進

シルバーセンターにおいて、市民を対象とした介護に必要な知識や技術を学ぶ各種講座や介護職員を対象とした業務に必要な知識・技術の習得及び介護職としての資質向上を目的とした各種研修を実施する。また、福祉用具展示室を設置し、高齢者・障害者の生活の自立を助け、介護する人の負担を軽くするための福祉用具を展示するとともに、介護・福祉用具等に関する相談、情報提供を行う。あわせて、地域団体等に対し、これら講座等への参加促進の呼びかけを行う。

- ・ 27年度実績 ①介護講座の受講者数 6,690人
②福祉用具展示室利用者数 6,308人
- ・ 26年度実績 ①介護講座の受講者数 6,560人
②福祉用具展示室利用者数 5,761人

8. 多様な生活ニーズに対応した快適で安心できる暮らしの確保

(1) 快適に暮らしていくための環境の整備

● (ア) サービス付き高齢者向け住宅の登録及び質の確保

「高齢者住まい法」の改正により平成23年10月から創設された、住宅としての居室の広さや設備、バリアフリーなどのハード面の条件を備えるとともに、ケアの専門家による安否確認や生活相談サービスを提供するサービス付き高齢者向け住宅の登録及び質の確保を図り、高齢者が安心して暮らすことができる環境を整える。

- ・ 27年度実績 登録件数 4件（152戸）
延べ登録件数 43件（1,340戸）※ 廃止4件あり
- ・ 26年度実績 登録件数 5件（202戸）
延べ登録件数 43件（1,248戸）

○ (イ) 住宅改造費助成

身体機能低下等のために居宅の改造が必要な場合に、補助対象工事費の4分の3まで（60万円を限度）を補助する。

- ・ 27年度見込 17件
- ・ 26年度実績 16件

(2) 安心できる暮らしの確保

○ 老人福祉センター等災害対応設備整備

市内に8ヶ所ある老人福祉センターに、福祉避難所運営に必要な備蓄倉庫を設置し、自家発電装置等の備品を配備する。（27年度をもって8センターすべてに配備完了。）

- ・ 27年度実績 2箇所（小鶴老人福祉センター、大野田老人福祉センター）
- ・ 26年度実績 2箇所（亀岡老人福祉センター、泉中央老人福祉センター）